

— 2月 —
各地の水土里ネット総会で政策訴える
比例区公認受け決意強める

2月の宮崎まさおの活動は、1日の静岡県土地改良事業団体連合会設立60周年記念式典出席から始まった。みかんの栽培で大きな成果を上げているJ・Aしきも訪問し、壮青年部の農家と活発な意見交換を行ったほか15日にJ・A静岡にも訪問した。また6日には島根県土地改良事業団体連合会の設立60周年記念式典にも出席して式典に花を添えた。

宮崎まさお
活動日誌 12

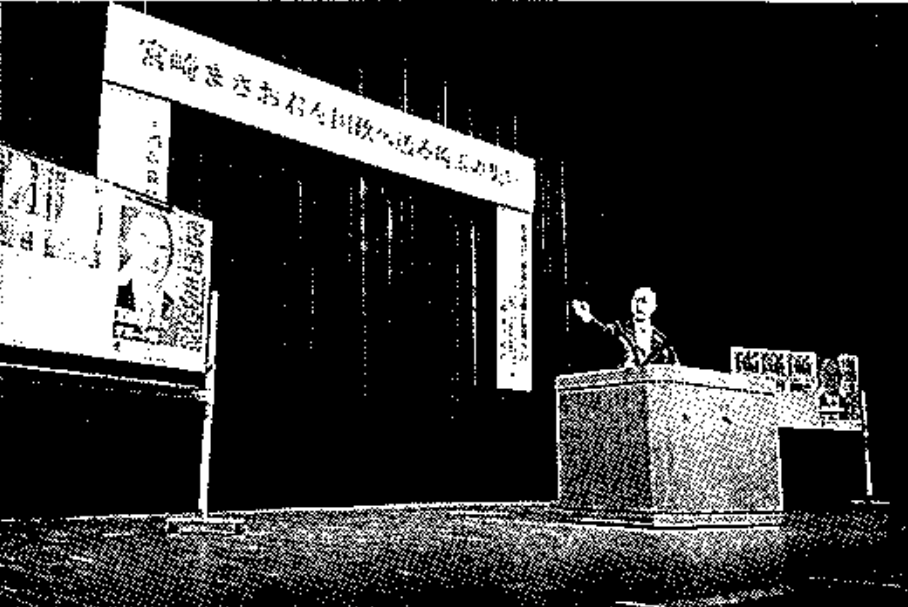
連に続き、12日に大分県土連、14日に佐賀土連・広島土連、18日に岡山県土連、21日に茨城県土連の総会に出席した。8日には、埼玉県加須市で「宮崎まさお君を国政に送る埼玉の集い」が開催され、埼玉県内の土地改良関係者約3百名が参加した。集いには埼玉県土地改良事業団体連合会会長でもある三ツ林裕己衆議院議員の他、野本、神尾両県議が出席することにも、元農林水産省事務

次官で、農村振興局長、関東農政局長も歴任した皆川芳嗣農林中金総合研究所理事長が宮崎氏の応援に駆けつけ、講演を行った。この他、大分県別府市でも励ます会が開催された。そして、10日には第86回自由民主党大会に出席し、待望の第25回参議院議員通常選挙比例区公認証を安倍総裁から授与された。大会には30名の自民党比例区候補者も出席しており、宮崎氏は夏

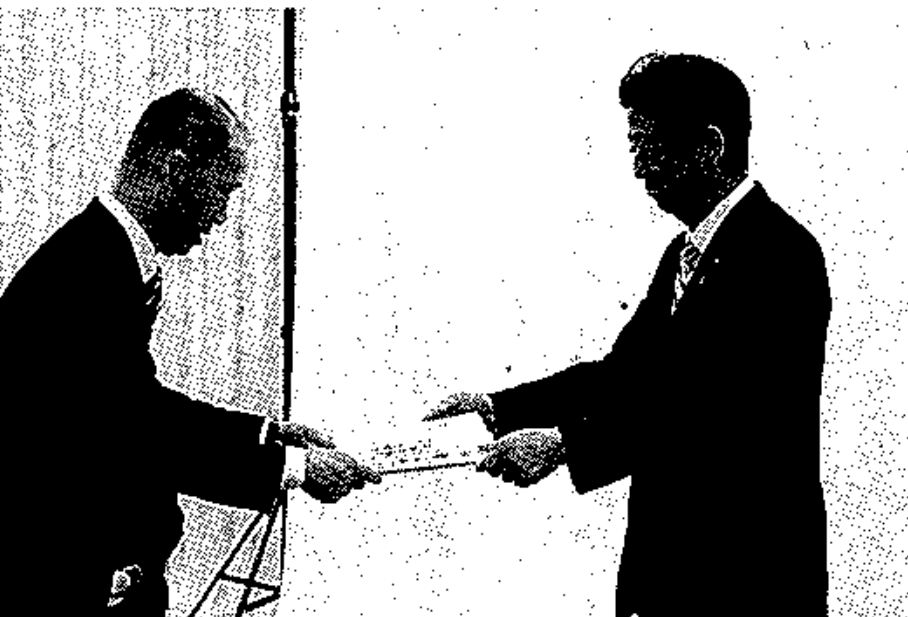
に向けて、これらの候補者とも、限られた枠を指して切磋琢磨していかなければならない、決意を新たにしていた。

なお各県の土地改良区などを訪問し、意見交換を行う中では、参加者から「改良区の経営強化のためとはいえ、小さな土地改良区を大きな土地改良区と一緒にして一律に複式簿記とするのではなく、きめ細かい対策にして欲しい。適正化事業の要件も同様に緩和して欲しい」「予算不足で県営ほ場整備が工期内に終わらず担い手の確保に支障が生じている」「地域を守る排水機場改修の事業費が大きいので、国費の確保

を」「石綿管用水路がまだ多く残っており改修予算が少ないので、さらなる予算確保を」「小さい土地改良区では維持管理の負担がたいへん。小土地改良区でも対応できるように制度拡充を」「H30年度からの水田フル活用政策では、収入影響緩和対策は担い手や新規就農者が対象で昔からやってきた者は対象になっていない。法人化もできないところが多く、老朽施設のたいへんな管理負担の一層の軽減策を」「これから老朽化した施設の改修が極めて重要になってくるが、改修の内容や採択基準が杓子定規すぎるとなかなか前に進まない。弾力的な事業運営をお願いします」「鳥獣被害が多発するなか、これまでワイヤーメッシュの柵を設置したり電気柵も設置したが、ワイヤーの径が小さいため猪に破られる被害が多発している。豚コレラを防ぐ観点からも、柵の再整備など弾力的な事業運営をお願いしたい」といった各地域の様々な望や意見が多く出された。



“埼玉の集い”で講演



安倍総裁から公認証を授与される